

アポプラスキャリア ラーニングカフェ交流会 VOL. 5

産業医を知る！わかる！変える！

人事として知るべき産業医の役割と産業保健の最前線



産業保健の中心的存在である産業医ですが、現場ではさまざまな理由から活用しきれない実情があるようです。第5回は産業医の役割を知り、実践に活かすために必要なことは何かを考えます。**今年度から始まった講演後の交流会は、多くの参加者と交流できるよう工夫され、参加者は思い思いに楽しみました。**

開催日時：2024年10月18日 16:00-18:30

会場：新東京ビル4F SR MeetupSpace

講師：久保さやか / 保健師

アポプラスキャリア株式会社

エグゼクティブアドバイザー

人事の悩みは産業医との「距離感」

今回は保健師をはじめ、さまざまな企業で産業保健に携わる22人が集いました。新たなスタイルとして、お酒を含むウェルカムドリンクを手に、他社の参加者との交流からスタート。事前アンケートを分析した講師から出てきたキーワードは「人事と産業医の距離感」でした。参加者の多くは産業医との協業において、役割認識の相違・資質のばらつき・コミュニケーションなどの困難を抱えており、その解決策を見出し距離を縮めようと、講師の話に耳を傾けました。

求められる“アドバンス”産業医

ゲストスピーカーに、産業医アドバンス研修会理事長／産業医科大学産業衛生教授の浜口伝博氏が登壇し、産業医の「制度を知る」「実情をわかる」「意識を変える」をテーマに、産業医と協業するためのヒントを提供しました。産業保健における諸問題は、労働問題から人をめぐる問題へとシフトしているものの、それらに対応できる「アドバンス産業医」の不足が懸念されると指摘。今後産業医は「アルバイト化」「専門化」と二極化していくと予測した上で「いい産業医と協業するには、自社がどのような企業に成長したいのかを考え、実現のために産業医にどのくらい期待するのかを伝えることが大切」と、参加者に自社の経営方針や産業保健の在り方について再考を促しました。

お互いにわかりあえていないことを認めよう

講演後久保講師は、組織はそもそも相互の「関係性」の上に成り立っているとした上で「こじらせている問題の多くは、当事者が認識や関係性を変えなければ解決しない適応課題」だとし、解決の一步は相手と自分の間に溝があることに気づくことから始まると投げかけました。

セミナー終了後の交流会は立食形式で、軽食と飲み物を囲みながら参加者同士の交流や、浜口先生に産業医活用について個別質問などが活発に行われました。他社を知れたことが収穫だったとする参加者が多く、明るい表情で会場を後にしました。



参加者の感想

職場の問題や課題を解決するために、産業医とあるべき姿についてしっかり話し合うことが必要だと感じました。



参加者との情報交換や交流を通して振り返り、交流会では軽食やお酒と共にさらに交流を深めることができました。

お問合せ先

アポプラスキャリア株式会社

ヘルスケアソリューション事業部

カスタマーサクセス

〒100-0005

東京都千代田区丸の内三丁目3番1号

新東京ビル7階

TEL 0120-842-862

MAIL apc-kan543@ap-c.co.jp



アポプラスキャリア 株式会社